

## 産学官連携イベントレポート

### 『第15回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会』審査会・表彰式レポート

平成31年2月18日(月)、霞山(かざん)会館(東京都千代田区霞が関)で『第15回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会』が開催され、8地区(北海道・東北・東京・中部・大阪・中国・四国・九州)の「学生によるビジネスプランコンテスト」の代表(12件)の中から、ビジネス及びテクノロジーの各大賞と特別賞が決定しました。

中国地区からは、広島大学大学院の北村さん(プラン名『Cyship サイバーセキュリティーの体験学習アプリ』)、広島大学の福岡さん(プラン名『南米と日本の架け橋に』)が出場し、北村さんはビジネス部門大賞(経済産業大臣賞)ほかを、福岡さんは審査委員会特別賞を受賞しました。

審査委員長(各務 東大教授)から、「新規性・独自性、実行性・市場性、表現力・魅力、の観点から審査を行ったが、例年にも増して高いレベルでの激戦で、レベルを押し上げた要因は、①社会課題に対して真正面から取り組み、何としても解決したいという思いがある、②問題点の掘り下げが明確、③現場の近くに身を置き、既にPCDAを回しており、これにより市場性の確認に結び付いている、④資料の中にストーリー性があり、個人の思いが凝縮されている」との講評がありました。また、「学生の一時期に考えたもので終わらせるのではなく、今日を出発点としてもらいたい」と激励の言葉がありました。

以下に受賞者およびその提案内容の概要を紹介します。



第14回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に出場された皆さん

## 《受賞プラン紹介》

### ○ ビジネス部門大賞（経済産業大臣賞）

広島大学大学院 北村 拓也 さん

『Cyship サイバーセキュリティーの体験学習アプリ』

北村さん(中央)

現在全国に 4450 ものプログラミング教室が存在するが、セキュリティーに関してはほとんど教えられていない。これは、講師の不足と教材もないこと、及びロボット制御などと異なり退屈な勉強であるため。そこで、楽しく学べる体験学習型アプリを開発した。対戦形式でセキュリティーの技術を学び、攻撃に対して負けると情報漏洩などを体験する。また、AI をブロックプログラミングで構築できる機能も備えた。



Cyship の開発過程では、専門家による指導を受け、更に中学生・高校生に実際に使ってもらい、改良を加えて現在の 3D ゲームに仕上げた。このアプリに対しては社会的反響も大きく、毎日新聞では 1 面で紹介され、ゲーム投稿サイトでは全国ランキング 1 位で、リリース後 2 日間で 1000 人以上が利用した。

収益源はプログラミング教室への販売であるが、まずは全国の教室の 7% のシェアを目指す。これは、私自身が中国四国地域でプログラミング教室を経営しており、中国四国地域の教室数が全国の 7% であることによる。ただし、これまでに大手企業との提携やアプリ買収のオファーを受け、更には執筆したプログラミング学習に関する本がアマゾンで 1 位になるなど、既に全国展開に手ごたえを得ている。

このアプリを開発した理由は、中学時代に不登校であった自分が、大学でプログラミングの魅力に魅せられて作ったアプリが全国 4 位になったものの、セキュリティーの問題で市場から排除された経験をし、子供たちにこんな思いをさせたくないため。

全ての子供たちにプログラミングの楽しさと、自分の作品を守る技術を届けたい。

### ○ テクノロジー部門大賞（文部科学大臣賞）

慶応義塾大学大学院 二宮 英樹 さん

『医療自然言語処理技術で医療現場や創薬を効率化』

脳神経外科医として勤務し、医療現場の非効率性と、データの活用が不十分な現在の状況に危機感を感じ、この事業を立ち上げた。医療言語処理およびデータ解析に関する受託事業を行いながら、医療言語処理アルゴリズムの開発を行っている。書類作成業務やデータベースへの入力作業を効率化し、医師の労働環境の改善に貢献する。同時に、医療データの整理・構造化を進め、似た症例などの検索をスムーズに行うことで臨床現場の効率化も行う。言語処理技術の難度は高いが、これを行わないと日本の医療現場は立ち行かなくなるとの覚悟を持って推進している。

収益源は、病院、製薬企業などへの課金であるが、電子カルテのメーカ、医療機関向けのデータハウス業者等と連携し技術を発展させていく。直近 3 か月の営業活動に対する反響は大きく、既に採用を進める病院もある。

医療現場によって使われる言葉が異なるため、病院などとの共同研究を進め、実用性の改善に努めている。日本の高い医療技術の現場においてデータを蓄積し、世界の医療に革命を起こしたい。

福岡さん(左)

審査委員会特別賞(2件)

広島大学 福岡 拓磨 さん  
『南米と日本の架け橋に』



日本企業、特に中小企業にとっては、南米に進出するのは難しいと思われがち。南米に2年間留学し、そこには大きなビジネスチャンスがあると確信した。チリ人は日本好きが多いが、寿司やアニメなどメジャーなものはひととおり経験してしまっており、もっと日本の実際の姿を知りたいというニーズが増加している。そこで、日本の日常を体験できるイベントからビジネスをスタートした。そのイベントには日本企業からサンプル商品の提供を受け、チリ人に対する市場調査などを行っている。そこで人気の高い商品を我々の直営店で販売している。将来的には、日本企業がチリに進出する場合は、日本語が堪能な現地人の採用などをサポートする事業などに発展させ、大きなネットワークの構築を目指す。日本人にとっては当たり前の食品やグッズが、現地ではこれまで体験したことのない新鮮なもので、市場を大きく拡大できる可能性がある。明日チリに向け片道切符で出発する。必ず成功させる。

長崎国際大学 杉山 裕磨 さん  
『音楽情報共有プラットフォーム PROPS』

音楽について語り、音楽とリスナーがつながる音楽情報共有アプリを開発している。音楽とは人生における栄養。現在ストリーミング技術のおかげで450万曲以上を聞くことができるが、その曲に込められた思いや背景、ジャンルならではの楽しみ方を知るのには、聞いただけではわからない。そこで開発したのが、情報共有アプリ PROPS。リスナーのみではなく、アーティストも曲への想いなどを投稿し、リスナーに訴えることができる。収益源は広告。競合アプリよりも、リスナーのパーソナリティに合わせた情報を取り出しやすくしている。4月にスマートフォンアプリとしてローンチを予定している。5月から英語に対応し、その後音楽業界に関する情報交換機能を追加する予定。音楽に興味ある人、音楽業界で働きたい人などを集めていき、そこからイベント事業、アーティスト支援の物品販売、キャリア支援などの事業へ拡大を図る。全ての人が尊重し合い、それぞれの色を作っていける世界を達成するのが、我がユニバーサル株式会社。

○ 日刊工業新聞社賞

名古屋大学 渡邊 智基 さん  
『GoENで繋がる世界～留学中の学生と海外展開中の企業を繋げるプラットフォーム』

海外に進出する企業、及び留学する学生は着実に増加している。海外に進出する企業は留学経験者の採用を望んでおり、留学生はそのような企業に就職したい希望を持っているが、留学先では企業と接触することはほとんどない。そこでこのプラットフォームを製作した。企業は世界中に留学している学生にアプローチすることが可能となる。学生から企業にアプローチすることも可能。海外でインターンシップを希望する学生にも対応する。収益源は、広告と留学経験者を採用したい企業から得る。富士通、名古屋大学等から支援を受ける予定。まずはヨーロッパから開始し世界中に展開する。将来的には海外の日本語学習者も対象とする。

- JVCA(日本ベンチャーキャピタル協会)賞  
広島大学大学院 北村 拓也 さん (経済産業大臣賞との複受賞)  
『Cyship サイバーセキュリティーの体験学習アプリ』

- MIT(MIT ベンチャーフォーラム)賞  
公立ほこだて未来大学 永井 智大  
『脳外科新人執刀医学習支援ソフトウェア PINOCO』

現在外科医が4割不足している。更に外科医の高齢化の問題も起きている。若手医師の教育が喫緊の課題。外科は職人芸に近く、容易に学べるものではない。そこで、若手医師をサポートするシステムを考えた。これの特徴は、医師が見たい手術映像を検索し見つけるためにAIの技術を利用し、手術を認識すること。症例を増やすことで、常に新しい手術映像を見ることができる。データベースとして運用し、日本全体で共有する。東京医科歯科大学と連携し、ここからビジネスを開始する。

- 友達(米日カウンセリングジャパン)賞 (4件)  
広島大学大学院 北村 拓也 (経済産業大臣賞と複受賞)  
『Cyship サイバーセキュリティーの体験学習アプリ』

慶応義塾大学大学院 二宮 英樹 さん (文部科学大臣賞と複受賞)  
『医療自然言語処理技術で医療現場や創薬を効率化』

大阪大学大学院 藪中 幸太郎 さん  
『みんなで作る教材データベース E commons』

現在大阪大学大学院の学生であるが、7年前から小中校生向け学習塾を運営している。現在の教育現場の最大の問題は労働環境。月80時間以上の時間外労働が小学校で3割、中学校では6割に上る。高離職率の上位3位に入っている。教育格差も深刻。これらの問題には多数の要因があるが、一つは現場における教材の調達が十分にできていないことがあげられ、これをビジネスで解決したい。現場の教員が作り上げてきた教材をベースに進化発展させる共有プラットフォームを実現する。ベースとなる教材を利用者がその現場に合うように改善するが、それを自分だけで使用する場合は有料、共有する場合は無料とする。利用されないベース教材は消去していく。また利用する学校・教職員から会費を徴収する。4月にこのシステムをリリースし、本格的に事業を開始する。

慶応義塾大学 田脇 裕太  
『介護予防のためのIoTリハビリプラットフォーム』

歩行機能のリハビリを戦略的に支援するためのホルダー心電計を開発している。ホルダー心電計とは、ウェアラブル心電計の旧型のものであるが、これにより自宅でのモニターを可能にした装置。これらのデータを収集することにより、予防医学にイノベーションが起きた。同じことを、介護予防に起こすことを考えている。その鍵となるのが、歩行器具。これは、歩行機能と介護予防に大きな関係があることが各種研究から明らかになりつつあるため。歩行機能を改善させる効果が高く、かつ道具を増やさないサービスのビジネスモデルを目指している。これを達成する手段が、IoTリハビリプラットフォーム。現在開発を進めている歩行解析センサーをリハビリの現場で使用し、データの収集を行っている。どのような状況(上りあるい

は下り、段差など)での歩行データであるかなど、データの組み合わせから判断することが重要。収集したデータから個人のトレーニング方法などを提供する。

○ 教職員審査員(文科省 Edge-Next 事業教員)賞

大阪大学大学院 藪中 幸太郎 さん (友達賞と複受賞)

『みんなで作る教材データベース E commons』

今回は入賞を逃しましたが、他に以下の発表がありました。

・香川高等専門学校 島崎 祐輔 さん

『おしや Very Good』

・東北大学 吉川 諒 さん

『味に特化したコーヒー検索プラットフォームアプリ “CoffeeKompass” ~ HumanizingCoffee を目指して~』

・関西外語大学 瀬上 純 さん

『留学予約サイト「スクールスキャナー」 ワクワクするような留学を、スマホ一つで』

・愛知淑徳大学 牧 里奈 さん

『Sinage Sign 第3の広告代理店』

以上